

タイトル: スーパーコンピュータ「富岳」を用いた豪雨や洪水の予測に向けて

発表者: 川畑 拓矢 (気象観測研究部)

概要:

近年、集中豪雨や台風による河川氾濫・洪水、暴風による激甚災害が毎年のように発生しています。今年も九州地方と中部地方を中心に集中豪雨が広範囲に発生し、多くの人的被害をもたらしました。特に熊本県球磨川で洪水被害が激しく、これは数時間に渡って上空に停滞した線状降水帯に寄って引き起こされたものです。線状降水帯のような狭い範囲に激しい豪雨をもたらす現象は、極めて予測が困難です。狭い範囲の現象を予測するための高解像度な数値シミュレーションモデルや、激しい現象を捉える観測データが必要ですが、特に積乱雲は初期値の小さな差が時間とともに大きく増大する性質が強く、長時間の予測は不可能と言われています。従って、似たようなシミュレーションを多数計算して、発生確率を求める手法が有効です。本講演では、このような計算がどのような豪雨・洪水の予測情報を創出するのかということについて解説いたします。